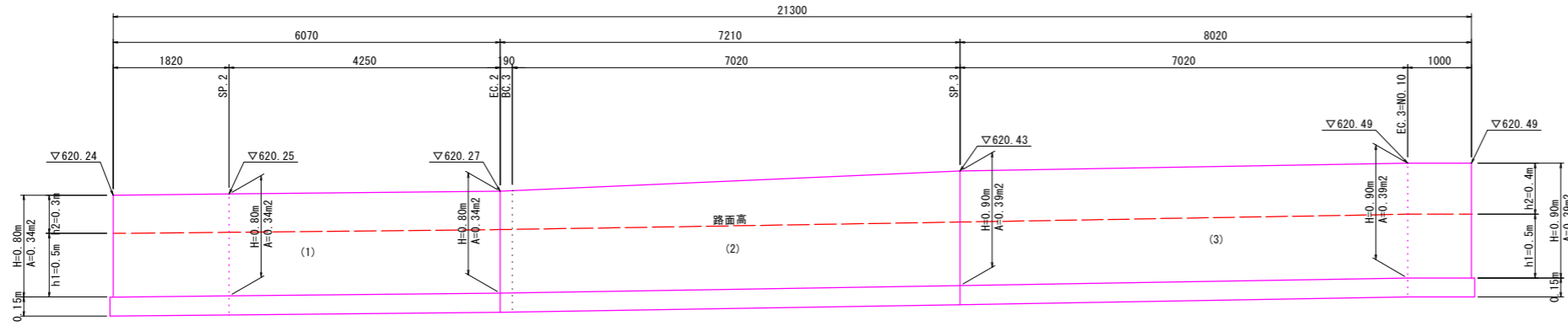


# 擁壁工構造図(3)

8号法留擁壁工展開図

V=1:25 (A1)  
H=1:50 (A1)

(正面側)



8号法留擁壁工数量

1. コンクリート (18-8-40BB)  
V1=(0.34+0.34)/2×6.07=2.06m<sup>3</sup>  
V2=(0.34+0.39)/2×7.21=2.63m<sup>3</sup>  
V3=(0.39+0.39)/2×8.02=3.13m<sup>3</sup>  
ΣV= 7.82 m<sup>3</sup>

2. 型枠  
A1=(0.80+0.80)/2×2.044×6.07= 9.9m<sup>2</sup>  
A2=(0.80+0.90)/2×2.044×7.21=12.5m<sup>2</sup>  
A3=(0.90+0.90)/2×2.044×8.02=14.8m<sup>2</sup>  
A4=0.34+0.39=0.7m<sup>2</sup>  
ΣA= 37.9 m<sup>2</sup>

3. 基礎砕石 (RC40-0, t=15cm)  
A1=(0.64+0.64)/2×6.12=3.9m<sup>2</sup>  
A2=(0.64+0.67)/2×7.21=4.7m<sup>2</sup>  
A3=(0.67+0.67)/2×8.07=5.4m<sup>2</sup>  
ΣA= 14.0 m<sup>2</sup>

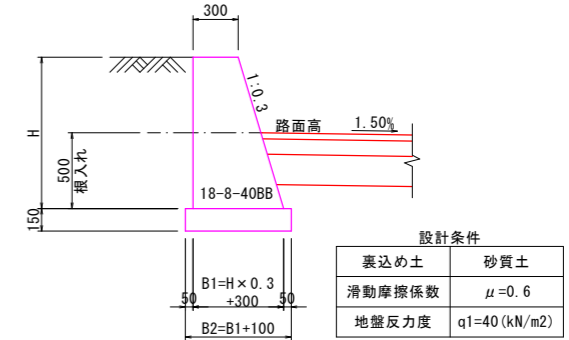
4. 目地 (エラストイト t=10mm)  
10mに1箇所  
N=21.30/10.0=2箇所  
平均断面積  
A'=7.82/21.30=0.37m<sup>2</sup>  
ΣA=0.37×2= 0.7 m<sup>2</sup>

5. 水抜きパイプ (VUφ50mm)  
対象正面積  
A'=(37.9-0.7)/2.044-0.50×21.30  
=7.55m<sup>2</sup>  
平均高 H'=7.55/21.30=0.35m  
平均幅 L'=(0.35×0.3+0.30+0.30)/2  
=0.35m  
2.0m2に1箇所  
N=7.55/2.0=4箇所  
ΣL=(0.35+0.05)×4= 1.6 m

法留擁壁工 標準断面図

S=1:25

国土交通省制定 土木構造物標準設計第2巻  
小型重力式擁壁 SGW55 適用



特記

- 背面埋戻し土の土質は、砂質土と設定しているため、土質定数がそれ以下の場合は、擁壁形状の検討が必要となる。
- 施工時には平板載荷試験等を行い、基礎地盤に地盤反力度以上の支持力があるか確認すること。
- 根入れ深さは、H=50cm以上確保する。

交通安全事業(通学路緊急対策)			
金井片羽線道路改良工事			
番号	9/12	擁壁工構造図(3)	縮尺 図示
市道 金井片羽線			
東御市 乙女平			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
東御市			